

第2 幸せ実感くまもと4カ年戦略 (健康福祉部関連の概要)

1 「幸せ実感くまもと4カ年戦略」策定の趣旨

幸せ実感くまもと4カ年戦略は、前戦略における「県民幸福量の最大化」の考え方を継承しながら、さらに「県民が幸せを実感できる」よう、今後4年間で重点的に推進する主な施策を明らかにしたものです。

こうした方針を示すことで、本県のめざす姿等について県民との共有を図り、その実現に向け、市町村、企業や団体等、県民一体となって取組みを進めます。

この4カ年戦略は、「幸せを実感できるくまもと」の実現に向け推進する15の戦略と、それらを構成する75の主な施策をまとめたものです。

健康福祉部としても、戦略に基づき「県民が幸せを実感できる」よう、各施策の取組みを推進します。

2 戦略の期間

平成24年度から平成27年度（西暦2015年度）まで。

2 幸せ実感くまもと4カ年戦略（構成）

“活力を創る”

【戦略1】ビッグチャンスを生かす
～ 県経済の力強い成長をリードします ～

【戦略2】稼げる農林水産業への挑戦
～ 農林水産業を再生します ～

【戦略3】地域力を高める
～ 政令指定都市以外の地域振興を重点的に進めます ～

【戦略4】未来型エネルギーのトップランナー
～ 新エネ・省エネの先進県をめざします ～

“アジアとつながる”

【戦略5】アクション・アジア
～ 成長するアジアの市場に打って出ます ～

“安心を実現する”

【戦略6】長寿を楽しむ
～ 長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ ～

【戦略7】子どもの育ちと若者のチャレンジを応援
～ 熊本の未来の元気をつくります ～

【戦略8】障がいのある人が暮らしやすい熊本
～ ともに支え、ともに担う社会をつくります ～

【戦略9】人が人として互いに尊重される安全安心な熊本
～ 一人ひとりを大切に、一人ひとりが大切にされる、安全安心な社会を実現します ～

【戦略10】災害に負けない熊本
～ 熊本の防災力を高めます ～

“百年の礎を築く”

【戦略11】熊本市圏の拠点性向上
～ 将来の州都をめざします ～

【戦略12】悠久の宝の継承
～ 熊本の宝を磨き上げ、引き継いでいきます ～

【戦略13】環境を豊かに
～ 環境意識と行動を高めていきます ～

【戦略14】熊本アカデミズム
～ 「知」の集積を「地」の活力につなげます ～

【戦略15】夢を叶える教育
～ 次代を担う人材を育てます ～

は健康福祉部関連部分

【めざす姿】

活力溢れる元気な
くまもと

アジアの中で
存在感のある
くまもと

いつまでも楽しく、
元気で安心して
暮らせるくまもと

誇りを持ち、
夢の実現に挑戦する
くまもと

「県民一人ひとりが幸せを実感し、住み慣れた地域で夢を持ち誇りに満ちた暮らしが送れる熊本」

幸せを実感できるくまもと

県民幸福量の最大化

3 「幸せを実感できるくまもと」の実現に向けた取組み <健康福祉部関連>

戦略1 ビッグチャンスを生かす ~県経済の力強い成長をリードします~

【概要】

九州新幹線の全線開業や熊本市の政令指定都市移行という、100年に一度のビッグチャンスを最大限に生かしながら県経済の力強い成長をリードするため、地域を支える中小企業のチャレンジへの支援や、熊本発の新たな産業の展開、企業誘致に積極的に取り組みます。

また、県内の観光資源やおもてなしに磨きをかけるとともに、九州観光の拠点として熊本を訪れ、九州内を周遊する観光スタイルを確立し、観光客の増大につなげます。

戦略1 - 産業力の強化

福祉を成長産業として支援する

~産業としての「福祉」ビジネスへの支援~

- ・ 成長が見込まれる「福祉」を内需や雇用を支える基幹産業として捉え、その成長を促します。そのため、介護や福祉、看護、保育などに携わる職員が適正に評価され、次代を担う若者が誇りと夢を持って、その職を選択し働き続けることができるよう、技能・資格取得を支援するとともに、正規雇用の拡大など処遇改善を後押しします。

戦略5 アクション・アジア ~成長するアジアの市場に打って出ます~

【概要】

これまで交流を重ねてきた中国・こうせいそうぞく広西壮族自治区や韓国・ちゅうせいなんどう忠清南道に加え、上海、香港、シンガポール、台湾などを拠点とし、東アジアのみならず、アセアン地域もターゲットにした海外戦略を積極的に展開し、躍動し成長を続けるアジアの活力を取り込みます。

戦略5 - アジアに打って出る

アジアの市場に打って出る

~新たなマーケットの開拓と交流促進~

- ・ アジア各国の研究者や行政、医療、福祉関係者などが、認知症対策に関する医療や介護をはじめとした様々な分野における“熊本モデル”を学べるよう、大学や関係団体と協力して研修体制を整備し、交流を促進します。

戦略6 長寿を楽しむ ~長寿を恐れない社会から長寿を楽しむ社会へ~

【概要】

何歳になっても、健康でいきいきと仕事やボランティア活動に打ち込むことができ、知識や経験、技能などの持てる力を生かし、生きがいを持って活躍できるよう、高齢者の“居場所”と“出番”を提供します。

また、医療や介護が必要になっても、安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域包括ケアの体制づくりを行政、医療、福祉が連携した“オール熊本”で進めます。

このような取組みを通じて「長寿を恐れない社会」を更に一歩進め、「長寿を楽しむ社会」をつくりまします。

戦略6 - 長寿を楽しむくらしづくり

いつまでも元気に長生きできる

～いつまでも健康で活躍できる環境づくり～

- ・ 高齢者が、それまで培った知識や経験をはじめ、スポーツや芸術などの特技を生かして地域に貢献する「シルバーインストラクター制度」を創設します。
- ・ 子どもの頃からの健康づくり、生活習慣病の早期発見や重症化予防、健康に重要な役割を果たしている歯及び口腔の健康づくり、高齢期の介護予防など健康寿命を延ばす取組みを県民運動として推進します。

年金プラス のシルバーライフを実現する

～高齢者のコミュニティビジネスなどへの支援～

- ・ 年金プラス の収入が得られるシルバーライフの実現をめざし、農業と福祉の連携などによる高齢者が主役のコミュニティビジネスなどを支援します。

戦略6 - 長寿の安心を実現するための体制づくり

介護が必要になっても安心して暮らせる

～地域での介護を支える環境づくり～

- ・ 子どもたちや元気な高齢者が、身近な地域で高齢者などの見守りや日常生活の支援を行う「県民総ヘルパー運動」を進めます。
- ・ “認知症サポーターが日本一活動する県”をめざし、高齢者の見守りや傾聴ボランティアなど、認知症サポーターの活動を拡大します。
- ・ 高齢者ができるだけ住み慣れた地域で生活できるよう、地域密着型の介護サービス基盤の整備を引き続き進めます。

病気になっても安心して暮らせる

～安心な地域医療体制の整備～

- ・ 高齢者や障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、在宅医療の要である訪問看護を県内全域で利用できる体制を整備します。
- ・ 地域医療を支える医師や看護師などの不足に対応するため、幅広い診療活動ができる医師の育成・確保に努めるとともに、医師や看護師をはじめとする医療従事者の就業環境改善に向けた取組みを推進します。

長寿を支える環境を整備する

～高齢者が安心して暮らせる環境づくり～

- ・ 熊本モデルと呼ばれている2層構造（基幹型センター、地域拠点型センター）の認知症疾患医療センターと身近なかかりつけ医との連携を強化し、3層構造の“新たな

熊本モデル”を構築します。

- ・ 家族などがいない高齢者や障がいのある人の権利を擁護し、適切な医療、介護、福祉サービスなどを受けることができるよう、市町村とも連携し、成年後見制度の利用促進を図ります。
- ・ 成長が見込まれる「福祉」を内需や雇用を支える基幹産業として捉え、その成長を促します。そのため、介護や福祉、看護、保育などに携わる職員が適正に評価され、次代を担う若者が誇りと夢を持って、その職を選択し働き続けることができるよう、技能・資格取得を支援するとともに、正規雇用の拡大など処遇改善を後押しします。（再掲）

戦略7 子どもの育ちと若者のチャレンジを応援 ～熊本の未来の元気をつくります～

【概要】

子どもや若者は熊本の未来そのものです。私たち大人は、子どもたちが健やかに育ち、笑顔あふれる毎日を送れるよう取り組んでいく責務があります。また、若者が、自分がやりたい仕事、自分の可能性を広げる仕事に就くことができれば、個人としての夢が叶うだけでなく、社会全体の元気にもつながります。

子育ての出発点は家庭であり、子育ての第一義的役割を担う保護者を応援するとともに、社会全体で子どもを育み、守るくまもとづくりを進めます。また、若者が、仕事への憧れや夢を持ち、またそれが叶えられるよう、意欲ある若者のチャレンジを応援します。

戦略7 - 子どもの健やかな育ちと子育ての応援

子育てを地域でサポート

～地域一体となった子育て支援～

- ・ 熊本市周辺部の市町村で発生している保育所入所待機児童の解消をめざし、保育所の新設や増改築等による定員増への支援に加え、地域の保育所と連携して、家庭的保育（保育ママ）の充実を支援します。
- ・ 子どもたちが安全安心に毎日過ごすことができるよう、「放課後児童クラブ」の指導員の育成、適正規模での運営など、必要な環境整備を進めるとともに、「放課後子ども教室」と連携し、全市町村の住民がサービスを利用できるような体制づくりをめざします。
- ・ 家庭での養育が困難な子どもたちを社会全体でサポートするため、児童養護施設や里親などによる支援を拡充します。
- ・ 県が頻繁にセミナーやシンポジウムを行う施設については、子育て世代が安心して参加できるよう、施設の設置者と連携して託児機能の整備を進めます。

子育てを医療面からサポート

～病児・病後児保育への支援～

- ・ 子どもたちが病気になっても完全に治るまでの間、安心して子どもたちを預け、親が働き続けることができるよう、「病児・病後児保育」の財政支援を拡充し、全市町村の住民がサービスを利用できるような体制づくりをめざします。

戦略7 - 若者のチャレンジの応援

若者の可能性を拡げる

～若者の自立と夢の実現の支援～

- ・ 自立をめざす若者を支援するため、「若者サポートステーション」における就労体験の場の提供や、専門相談員によるカウンセリングなどの支援を強化します。

戦略8 障がいのある人が暮らしやすい熊本

～ともに支え、ともに担う社会をつくります～

【概要】

平成23年7月に制定した「障害のある人もない人も共に生きる熊本づくり条例」に基づき、障がいのある人もない人も、地域で支え合いながら、安心して暮らすことができる共生社会をつくります。また、障がいのある人が地域でいきいきと自分らしく暮らしていくことができるよう、関係機関と連携して、就労や活動のステージづくりを進めます。

戦略8 - 障がいのある人の暮らしの応援

就労を進める

～一人ひとりに応じた就労支援～

- ・ トライアル雇用を行う企業に対する支援制度を拡充するとともに、行政・学校・福祉団体・民間企業などが連携し、「一人ひとりのライフステージに応じた総合的な就労支援」を行う体制を構築します。
- ・ 障がい者施設とJAなどが契約し、施設の利用者が年間を通して、農業で働くことができるような新たな雇用形態の創出に取り組みます。
- ・ 障がいのある人への就労機会の拡大に向けたポジティブアクション（積極的改善措置）として、障がい者施設や団体に業務を優先発注するなど、県が率先した取組みを進めます。

地域での暮らしを支える

～障がい者と家族が安心して暮らせる地域づくり～

- ・ 地域で支え合い、安心して暮らせるグループホームなどを増やすため、支援を拡充します。
- ・ いつでも必要な時に相談を受け、支援を行う「24時間安心サポートセンター」の設置を進め、障がいのある人が地域で安心して暮らせる体制づくりを進めます。
- ・ 障がいのある人の家族の負担軽減のため、福祉施設や医療機関との連携により、一時預かりなどのレスパイト・ケアの充実を図ります。
- ・ 重症心身障がい児（者）が地域で安心して生活できるよう、医療、保健、福祉、教育などの関係機関と連携した支援体制を整備します。

発達障がい児（者）を支援する

～ライフステージに応じた切れ目のない総合的な支援～

- ・ 発達障がいについて、県民の理解を深めるとともに、市町村と連携して、健診や巡

回相談の充実を通じた早期発見・早期療育に努め、気づきから受診、支援にいたるまでの期間の短縮を図りながら、当事者のライフステージ(乳幼児期～就学期～就労期)に応じた切れ目のない総合的な連携・支援体制を構築します。特に、相談・支援体制の強化などにより、申込みから相談(受診)までの待機期間の解消をめざします。

戦略9 人が人として互いに尊重される安全安心な熊本

～一人ひとりを大切にし、一人ひとりが大切にされる、

安全安心な社会を実現します～

【概要】

同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決し、人が人として互いに尊重される社会となるため、人権教育・啓発を積極的に推進するとともに、誰もが安全で安心して暮らせる社会を築くことにより、一人ひとりを大切にし、一人ひとりが大切にされる熊本をつくります。

戦略9 - 一人ひとりが尊重される社会の構築

一人ひとりを大切に

～一人ひとりを大切にし、大切にされる社会づくりの推進～

- ・ 児童虐待やドメスティック・バイオレンス、職場におけるパワー・ハラスメント、心の暴力であるモラル・ハラスメントを根絶する運動を全国に先駆けて展開し、虐待の連鎖を食い止めます。
- ・ 小・中学校における「命を大切にする教育」の授業実施や、ゲートキーパーの養成、自死遺族の方々への支援活動への援助など、自殺対策を積極的に進めます。

戦略9 - 安全安心な社会の構築

健康危機から暮らしを守る

～健康危機管理対策の強化～

- ・ 日頃から、新型インフルエンザの発生に向けた体制整備や食中毒などの未然防止に努めるとともに、原因不明や複雑な健康危機が発生した場合には、医師等で構成する専門チーム(FEIT)を現地に派遣するなど、健康危機の拡大・再発防止に向け、迅速に取り組みます。

戦略10 災害に負けない熊本 ～熊本の防災力を高めます～

【概要】

東日本大震災は、私たちに貴重な教訓をもたらしました。まず、あらゆる想定をして対策を立てておくこと、そして、想定外の事態が発生しても柔軟に対応していくこと、更に、防波堤のようなハードに過度に依存せず、“まずは避難する”といった心構えを徹底することです。県では、これらの教訓を踏まえ、“命を大切にする”ことを最優先に、あらゆる災害を想定し、自助・共助・公助の観点のもと地域防災力を高めます。

戦略10 - 災害に負けない社会インフラ、ソフト対策の強化

自助・共助・公助を強化する

～自助・共助・公助による地域防災力の向上～

- ・ 「災害時要援護者避難支援計画（個別計画）」の全市町村策定をめざすとともに、社会福祉法人と市町村との協定締結を進め、福祉避難所^{*2}の設置を進めます。
- ・ 県の防災対策や災害発生時における迅速かつ的確な対応などのため、外部の専門家等の人材を積極的に活用します。
- ・ 災害発生時において、要援護者を支援する、全国のモデルとなるような「高齢者・障がい者版DCAT」を創設します。

戦略15 夢を叶える教育 ～次代を担う人材を育てます～

【概要】

子どもたちが、どのような環境にあっても、学ぶことを楽しみ、夢に挑戦し、夢を叶えることができるような教育を進めます。また、熊本の歴史・文化などを理解し、郷土への誇りを育むことにより、熊本の発展を支え、九州、日本、そして世界を支える人材を育てます。

戦略15 - 夢を育む教育の推進

貧困の連鎖を教育で断つ

～ひとり親家庭等の子どもたちの教育環境づくり～

- ・ 家庭の事情などで塾に通いたくても通えない子どもたちに学びの場を提供するため、学校の空き教室や地域の縁がわ、更には民間の学習塾などを活用した「地域の寺子屋（仮称）」を広めます。
- ・ ひとり親家庭などへの職業訓練や子どもに対する教育支援を引き続き支援するとともに、日曜相談窓口の設置など新たな取組みを進めます。